

## 答辞

春の訪れを感じるこの良き日、私たち HPS 養成週末講座 2 クール生は修了式を迎えます。今日まで支え、導いてくださった先生方始め、諸先輩方、私たちに関わるたくさんの方々へ、一同を代表してお礼を申し上げます。

平成 29 年 4 月 22 日、私たちは多くの学びへの期待を胸に、この 101 教室で開校式を迎えました。北は福井、富山から南は宮崎と各地から、生活する環境も育った環境もそれぞれの私達ですが、同じ道を目指す仲間同士、すぐに打ち解けみんなの存在は心の支えとなりました。

講義ではまず、遊びとは何かから始まり、私たちは授業の中で金言集を作成しました。

遊びとは自分を認め、認められるもの。

人の心と記憶に残る仕事。

大きさは無限大、中身はお楽しみ。

1 つの遊びに世界を見る。

心の栄養剤。

ワクワクドキドキハラハラ。

無限大の可能性、自分を表現し、人と心を通わせる、前に進める。

全ての子どもが平等に持っていていつでもどこでも主役になれるもの。

楽しくて誰かに伝えたくなる、そんな遊びは宝の時。

決まりはなく自由、だからこそ奥が深い。

遊びたいから遊ぶのだ。いつでもどこでもなんどでも。

私たちは遊びながら、遊ぶことを体験的に学び、遊びは前に進めることを学んでいきました。テリー先生の授業では、子どもを観察する視点として、4 つの C を学びました。それぞれの C を理解するために勇気を学ぶ課題では、木製チップを初めて会う人へ、その人の良いところを伝えながら渡すことをしました。私はホテルのチェックアウト時に、女性のスタッフへ渡しました。最初何事かと心配そうに見ていた周りのスタッフの方も、お話ししてプレゼントし終わった頃にはニコニコ笑顔になっており、ふんわりとした雰囲気になり、勇気を出せた私は少し自信を感じることができました。つながりを学ぶ授業ではポケットフレンズを制作しました。自分で制作したものは自分を鼓舞させる勇気の源になり、同期やテリー先生からいただいたポケットフレンズは、見たり触ったりすれば、その人との思い出、その人との繋がり感じることができ、心の支えとなりました。私たちはいくつもの遊びの中で純粋に楽しみ、また、自分たちのことを分析していました。

実習では HPS の働き方、他職種との連携の仕方を学び、子どもとじっくり時間をかけて遊ぶことで見えてくるもの、入院する子どもがいかに遊びを必要としているのかを感じ取りながら、遊びの時間がまだまだ確保できていない現場の現状を知りました。週末講座の私たちは、学んだことを職場でさっそく取り掛かっては成功と失敗を経験しました。それでも今日

まで諦めずに頑張れたのは、辛い時に話を聞いて一緒に悩んでくれて、解決策を考えてくれ、成功体験は一緒になって喜んでくれ、自分たちも取り入れようと、前に進ませてくれるきっかけをくれ続けた仲間がいたからです。

私達は明日から、ホスピタル・プレイ・スペシャリストとして現場に帰ります。

今日まで私たちを支えてくださり、応援して下さった全ての方々へ感謝いたします。

最後に一年間の講義を終え、今考える、私たちの HPS 養成週末講座 2 クール生の金言集を発表します。

ありのままの姿でいられる心の栄養、一人でも多く広げるべき、大切なもの

遊びは可能性。いろんな姿や力を引き出してくれるもの

心を解放し、自分自身でいられる、あなたと私をつなぐ大切なもの

笑顔と喜びと発見

心のゆとり

輝きの源。夢も、生きる力も、癒しもくれる

無限大！自由であり、繋がれるもの

私とあなたに勇気をくれるもの

遊びとは生きる源

その子らしく、生き生きと輝けるとき

遊びとは生きること。遊びなしでは人は、人らしく生きられない

私たちは遊びの力を信じて、子どもたちのために歩んでいきます。

修了生を代表し、答辞とさせていただきます。

平成 30 年 3 月 24 日 修了生代表 西川 恵利